

**2019J2** ■順位表■ 第2節  
勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	水戸	6p	+4	4	0	
2	琉球	6p	+3	7	4	
3	柏	6p	+2	3	1	
4	甲府	4p	+3	5	2	
5	新潟	4p	+3	4	1	
6	京都	4p	+1	2	1	
7	愛媛	4p	+1	1	0	
	長崎	4p	+1	1	0	
9	岐阜	3p	+1	2	1	--- ---
10	鹿児島	3p	0	5	5	
11	徳島	3p	0	4	4	A●
12	山形	3p	0	2	2	HO
	岡山	3p	0	2	2	
14	町田	3p	0	1	1	
15	大宮	1p	-1	3	4	
16	金沢	1p	-1	1	2	
17	福岡	1p	-2	1	3	
18	千葉	1p	-3	1	4	
19	栃木	1p	-3	0	3	
20	東京V	0p	-2	0	2	
21	横浜FC	0p	-3	0	3	
22	山口	0p	-4	3	7	

**次回HomeGame**

第4節 vs.鹿児島ユナイテッド  
3/17(日) 14:00  
@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

**大酒場 ホームラン**  
名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業  
TEL.058-263-5201

**Living in Woods**  
本庄工業株式会社  
http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。  
『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

today's guest : **ファジアーノ岡山**

2018 J2 14勝11分17敗 勝ち点53:15位

直近の対決と結果

2018/10/13
J2 - 37節@長良川
<b>岐阜 2-1 岡山</b>
田中パウロ淳一,石川大地 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		ファジアーノ岡山	
2019/03/03	J2 - 2節@鳴門大塚 徳島 1-0 岐阜	2019/03/03	J2 - 2節@Cスタ 岡山 2-1 金沢
2019/02/24	J2 - 1節@長良川 岐阜 2-0 山形	2019/02/24	J2 - 1節@Cスタ 岡山 0-1 水戸
2018/11/17	J2 - 42節@長良川 岐阜 0-0 福岡	2018/11/17	J2 - 42節@Cスタ 岡山 0-1 大宮

●ついに始まったJ2リーグ・2019シーズン。そのシーズン開幕戦が2/24(日)に行われ、FC岐阜はホーム・長良川に山形を迎えた。開幕戦という緊張もあってか、試合の序盤は両チームとも動きに硬さが目立ち、前半は山形優勢で終わる。後半になると岐阜が試合の流れを握り、徐々に山形のゴールに迫る。そして後半8分、#14 風間宏矢がゴール右隅に流し込んで先制点、そして今季初のゴールを決める。その後も岐阜の勢いは止まらず、続く後半27分にも再び#14 風間宏矢が追加点。試合終盤は山形に押し込まれる展開が続いたが、無失点に抑えて2-0で終了。2014年以来、5年ぶりとなる開幕戦初勝利を挙げた。

そして連勝を挙げるべく、3/3(日)第2戦・アウェイ徳島の地に乗り込んだFC岐阜。しかし、徳島の厳しい寄せに苦しみ、なかなかボールを自分たちのリズムで回すことができない。一進一退の激しい消耗戦が続き、このままスコアレスドローかと思われた試合終了直前の後半50分、岐阜の守備陣のわずかな乱れに乗じた#13 清武功暉に決勝点を決められ、まさかの0-1で敗戦。最後まで集中してプレーすることの重要性を、痛いほど思い知らされる悔しい結果となってしまった。

これで開幕から2試合、FC岐阜の成績は1勝1敗で9位。もちろん2試合での結果なのであつという間に変動する順位だが、初ゴール・初勝利を挙げたことで選手たちは手応えを感じていることだろう。前節アディショナルタイムに失点してしまったことを教訓として、ホームに帰ってきた今節は、再び勝利で岐阜サポーターを喜ばせて欲しい。さて、今節の対戦相手はファジアーノ岡山。昨年は15位に終わり心機一転、今季は有馬賢二監督を迎えてスタートを切った。戦術も3バックから4バックとして、これまでの堅守速攻からの変化を目指しているチームだ。開幕戦は0-1で水戸に敗れたものの、第2節は2-1で金沢に競り勝ち、現在は1勝1敗で12位。今節は連勝を達成すべく、長良川に乗り込んでくるだろう。しかし、これから岐阜が上位を狙うためには、ホームでの勝利が何よりも重要だ。負ける訳にはいかない。

岡山とのJリーグでの通算対戦成績は、岐阜の8勝8分5敗・24得点24失点と、岐阜が勝ち越しているものの、ホーム戦では3勝4分3敗・12得点14失点と互角の成績だ。ただし、昨年のホーム戦・10/13(日)第37節では、試合終了間際に#18 石川大地の決勝ゴールで2-1、14試合振りの勝利を掴んだ試合を憶えている岐阜サポ諸兄も多いことだろう。今回の対戦では、しっかりとホームで勝ちきるプレーを、岐阜の選手たちには見せて貰いたい。

岡山で最も注意すべき選手には、今季初ゴールを挙げた#19 仲間隼斗を挙げなくてはならないだろう。思い切りの良いミドルを撃たせないためには素早いチェックが求められる。また、#14 上田康太の左足から放たれる精度の高いキックにも注意が必要だ。そして、今季の岡山には#10 レオミネイロがいる。2シーズン(15~16年)を岐阜で過ごし、多くの岐阜サポーターに今もお愛されている選手だが、今節は活躍を許す訳にはいかない。その役割を担う岐阜の守備陣だが、残念ながらCBの柱を努めていた#34 北谷史孝が前節に負傷してしまった。代役にはベテラン#3 竹田忠嗣が予想されるが、岡山で10年間(08~17年)在籍した経験を活かして、スコアレスに抑える活躍を期待したい。また、大木武監督の御令室・大木智子様が逝去された旨がチームから発表された。その御冥福を祈らずにはいられないが、心中察するに余りある大木監督を、今こそ、僕ら“FC岐阜ファミリー”が支えよう。僕らの声と拍手で、選手たちを鼓舞し、背中を押そう。ホームスタジアム全体で“俺たちが”“どんな時も”“共にいる”と示そう。そして、選手・サポーターが一丸となって、今節の勝利を掴み取ろう。(ささたく)

**投稿募集 !!** gidaidohri@gmail.com

## 【第1節】岐阜 2-0 山形

●いよいよ始まった2019シーズン。そしてホーム開幕戦となれば、僕の周り(というか僕自身)は、恒例の“年始のご挨拶廻り”が恒例行事…いいんです、だって先週のキックオフパーティでも「よいお年を！」って声を掛け合っただからです(苦笑)。さて、開幕のスタメンは、左右SBに大卒ルーキーを起用した以外は昨季からのメンバー。しかし…噂通り、中盤がダイヤモンド型の4-4-2(あるいは4-3-1-2。どちらにせよ2トップ)とは(驚き)。今までは4-3-3の布陣でサイドに張った戦術を中心にしていた大木サッカーだけど、サイドを突破した後に敵陣中央にいる味方の枚数が少なく、決定機が作れないという欠点を克服するための布陣と考えればいいのか、と僕は思った。あとは、これが機能するかどうか…。

さて、穏やかな小春日和とはいえ、やはり開幕戦。緊張と実戦での経験値不足からか、両チームとも動きに硬さが目立つ立ち上がり。そして、昨季よりもピッチ中央でボールを繋ぐようになったように見える岐阜に対し、3バックによるサイドからのカウンターを狙う山形。一進一退…と言いたいところだけど、前半35分ぐらいに山形の攻撃で左右に揺さぶられ、ゴール裏からシュートコースが空いたのが見えた時は「やられた！」と思いましたが、“宇宙開発”でホント助かりました(苦笑)。

ロッカールームで大木監督の檄が飛んだのか、後半開始から勢いを増して攻撃を始める岐阜の選手たち。もちろん山形の選手も応戦するのだけど…徐々に山形の選手たちの動きが鈍ってくる。聞いた話では、山形の選手たちはずっとキャンプを張っていて、地元に戻っていないんだとか。そういった部分でコンディション調整が難しいのかも…と思っていたら、#10ライザがボールをキープしつつ中央から右に流れて#22柳澤亘に渡し、#22柳澤は大外をえぐってからマイナスのグラウンダーを中央に送り、そこに待っていた#14風間宏矢がタイミング良くGKの逆をついてコースに流し込み先制点！…とここで、喜ぶ宏矢の肩を心配したのは僕だけではないはずだ(笑)。さてこうなったら山形も攻撃に比重が…あれれ？逆に動きが落ちてしまったように感じた。一方の岐阜は得点を決めてさらに勢いが増す。そして2点目もショートカウンターから。#9山岸祐也のスルーパスを、山形DFの裏に抜けてGKと1対1になった#14風間宏矢が決めて追加点！そして試合が進み、3人目の選手交代で#11前田遼一が呼ばれてビブスを脱ぐと、それだけでざわめくスタジアム(笑)。出場時間も短かったし、2点リードの後半途中出場だったから、得点を狙うという役割ではなかったんだけど、やっぱり体幹強くて競り負けしないし、ポストプレーもボールキープも上手い…(溜息)。試合終了間際には、息を吹き返した(?)山形に猛攻を受けたけれど、跳ね返しつづけてクリーンシートで試合終了。“勝つべくして勝つ”岐阜の試合を見たのは、久しぶりかもしれない(苦笑)。開幕戦での勝利は、なんと5年ぶりだとか。山形には木山監督になって3年目で初めて勝つことができた。そーいや、アウェイ山形のユニは当然ながら“ほぼ白色”だったのに、岐阜が今季からの“赤いソックス”じゃなかったのは何故なんだろう？なんか言われた？(苦笑)終わってみれば強い勝ち方だったけれど、もしも前半に失点してたら、全く違う展開になっていたかもしれない試合結果。開幕で勝ち点3を獲れたことは喜んで、でも反省点をしっかり修正して、次節以降も勝利を！(ささたく)

●いよいよ、というか、とうとう、というべきか。今季のリーグ戦が始まった。

好天に恵まれ、9千人近くが集まったスタジアムは試合前から活気が溢れすぎるほどに溢れていた。屋台村には元乃木坂の応援マネージャーや元SKEの見習いスタッフ、そしてスパガ所属の新アンバサダーがいたり、戦国武将の集団が練り歩いて、空砲とはいえ大砲をぶっ放したりしたかと思えば、

颯爽とスケボを乗り回す、足も速いマスコットまでいて、かのアリス嬢もビックリしそうなワンダーランドの様相を呈していた。こんなスタジアムは他にはないんじゃないかな？開幕の相手は山形。昨季の対戦成績は二敗一分け。天皇杯の試合結果はドロー。PK戦は、次に進むチームを決めるクジ引きだから、ダレが何と言おうとボクの中ではドロー。そういうことにしておいてください。

試合が始まって驚いたのは、昨季までの見慣れた3トップ、数字で表すと4-3-3ではなく2トップだったこと。しかも、中盤はアンカーに賢星を置いた4-4-2。それも航汰と悠史が両ワイドに張るんじゃなくて、中に絞る形のダイヤモンド。その頂点にはコーヤがいた。結論から言えば、文字通り輝いてくれたよね。

これがトーマや富樫なら、昨季のキョーゴやパウロのようにワイドに張るのかな？この試合では、中の近い位置に航汰と悠史がいたため、高い位置での数的優位が作れて相手ボールを奪う回数が多かったように見えた。それと、賢星が2CBの真ん中に入る形で3バックにして中盤に人を集め、攻撃の選択肢を増やしていたようにも見えた。2CBの間に入るといって庄司を思い出すが、QB的だった庄司とはまったく違う新たな可能性が垣間見えたんじゃないかな。

そんな中で生まれたコーヤの2ゴールとクリーンシート(ゼロ封)での勝利。ようやく、山形に一矢報いることが出来たね。開幕戦での勝利も久しぶり。え？3年ぶり？そんな最近でしたっけ？とにかく、得点を決めて、そのうえで勝利する。コレが一番のエンターテイメントですよ。あとはね、9番。ゼイタクを言うようだけど、先制後の決定機。あれがねえ。キックオフ・パーティーで「アナタが10点取ってくれたら、かなりイイとこ行くと思うんです、ウチ。」と言ったら「そうですね。わかりました。」と答えてくれたんだけど、あーいうトコだぞ？期待してるんだからね。今度は絶対決めてくれ、コーヤ！

まだまだ始まったばかり。この試合もハラハラしどおし。もしも、先に決められてたら？と思うとゾツとするけど、ルーキーたちも能力の片りんを見せてくれたし、どんどん期待が膨らむばかり。次節は今季初アウェイ。精一杯の後押しをやってきます！(ぐん、)

●『岐大通』配布、つまりシーズンチケット・ホルダーの先行入場時間の50分前には長良川に着いたのだけど、その時の第一印象は「出遅れたか？」だった。試合開始の3時間20分前にして、すでに長良川名物の屋台村では行列が出来ている店もあったし、イベントコーナーからはFC岐阜が東海リーグの頃から(!)応援してくれている司会者さんのトークがいつものテンションで響いてくる。競馬で喩えると、そこにいるすべての人が『かかっている』状態に思えた。聞くところによると、シーケの売上などもクラブ記録更新中！なんだそう。昨季の成績を鑑みれば「それって、いま流行の『トーフセイ』ってヤツじゃないの？(笑)」なんて冷やかしの1つも入れたくなくなってしまうけれど、実際に『岐大通』の配布を始めたらかわかったね。これ、ホントにシーケ売れてるよ。チャチャ入れてごめんさい。クラブの営業さん、ホントに頑張ってます。

そんなスタッフの頑張りに応えてくれた選手たちは見事。ではあるのだけど、試合結果には若干の「割増し」がかかっていたことは事実。対戦相手の山形は、この時期はまだ雪が多く残るので地元に戻れず、つまり「キャンプの延長」状態で開幕戦に臨んでいたのだそう。山形のJリーグでの「開幕戦」の戦績は、昨年までの通算5勝4分11敗。今年の岐阜戦も、後半から山形の選手は動きの質も量もみるみる落ちて行った。もちろん情けなどかける必要はないし、クリーンシートも当然の、「快勝」と呼ぶしかない試合だったけれど、その「快」の要因の半分前後は相手にもあった点は、受け入れておきたい。(吉田鎊造)

## 【第2節】徳島 1-0 岐阜

●連勝してシーズン開幕ダッシュ…との思いから、アウェイ・ポカスタに駆け付けた岐阜サポたち。しかし…個人的には少し油断してました、時折小雨の降る肌寒い気分で冷えること。こんな気候だから気持ちも身体も熱くなれる試合を…と思っていたのですが（溜息）。

岐阜と同様、パスを繋いでくる徳島。そのボール奪取に苦労する岐阜の選手たち。そして、岐阜がパスを繋いでリズムを作ろうとすると、激しくチェックにいき、（足元ではなくて）上半身をぶつけてボールを奪いに来る徳島の選手たち。そして、今節のジャッジが緩かったこともあり、なかなか思うように試合が運べない岐阜。何度か決定機をつくれるものの、それでも粘り強く守備を固めて、ゴールを割らせずに前半終了。ちなみに徳島に行っても、#47 押谷祐樹の“ダイブ癖”は変わらないというか成長してないというか…（苦笑）。

しかし後半早々に思わぬアクシデントが。#34 北谷史孝がスライディング時に負傷。すぐに×が出て、しばらくピクリとも動けず、担架で交替したところからすると、膝をやってしまった可能性が…（溜息）。ともあれ、少しでも早い回復を祈ります。

このあと、いつもとは逆で（苦笑）、徳島のDF陣がボール回しをしてるところを搔きさらってカウンターを仕掛けたチャンスが何度かあった。あの場面で1点決めることができたら、また試合の展開も変わったと思うんだけど…決められないと、再び流れは相手に行ってしまうのもサッカーではよくある話。それでも、最後まで岐阜の選手たちは徳島の攻撃をしっかりと防いでいたと思う。ただ、あの最後の場面…アディショナルタイムが6分と長かったから焦ったのか、GKとDF陣の連携が乱れてしまい、#25 ビクトルがボールをキャッチできなかった。こぼれたボールもキープできず、ゴール前に入ってきたボールにジャンピングボレーを放った#13 清武功暉のシュートがタイミング良くバウンドし、伸ばした#25 ビクトルの左手も届かず、ネットを揺らす…。向こう側での大騒ぎを苦々しく見つめながら、なんだか既視感があるなと思っていたんだけど、昨年も一昨年も、アディショナルタイムに失点しちゃってるんですね…（溜息）。3年目の岐阜・大木監督に対して、同じく3年目の徳島・ロドリゲス監督。偶然なのかもしれないけれど、3年連続だと、“魔境・ポカスタ”とも呼びたくなる気分です（溜息）。

とはいえ、それまでは互角に試合をしていた岐阜の選手たち。ところが、キャプテン#2 阿部正紀をはじめ、こちらに歩いてくる選手たちの表情が異常に陰しい。今年は勝利にこだわる気持ちが強いのだろうと思い、僕は拍手して迎えた。「次、ホームで勝とうぜ！」と叫んだ。そして昨年以上に選手たちを励ましている大木監督の姿も、そうやって僕は捉えていた。そして翌日、僕は大木監督の奥様の訃報を知った。監督ご本人も選手たちも、心中如何ばかりであったのか。これが“プロフェッショナル”の宿命なのか。僕自身、なんとも表現できない感情が渦巻いている。ただひとつ言えるのは、今日の岡山戦は絶対に勝ちたいという気持ちが沸き上がっている。そして、勝たせてやりたい。（ささたく）

●心配していた雨は降らなかった。それだけはよかった。残ったのは3枚の警告。そして、北谷の負傷。せめて、重症でないことを祈るしかない。結果としては、昨季のリプレイを見せられたようなアディショナルタイムでの失点で敗戦。さらに言えば、一昨年も同じようにアディショナルタイムに失点してドロー。もう少し。あと、ほんのちょっとで手に入るハズの勝ち点がスルリと逃げてゆく。三年連続でこんな内容だと、ポカスタでは、もうアディショナルタイムだけやればいいんじゃないか？ぐらいに思えてくるね。90分までの頑張り、あっけなく消え失せてしまう。選手達に掛ける言葉も尽きてしまうよ。

とはいえ、内容的には前半で白黒つけられててもおかしくない展開だった。なんとか堪えて、向こうが焦れてきた時、疲れてきた時にカウンターでもミスでも、何だっていいから先制、そして逃げ切る。そういう好機がいくつかあったにもかかわらず、決めきれないまま流れを渡す。逆に、そういう内容だったので、昨季と比べるとショックは少ない。現地にいたからこそその感想なのかもしれないが。昨季はポカスタに行けず、ネカフェでスマホ観戦。ラスト・シーンでは思わず声を漏らしてしまったことを思い出す。10連敗を確定してしまった、アノ瞬間の状態に比べたら全然マシだ。

何やら定まらない判定が続く中、あつぱあつぱな状態でも無失点で前半を切り抜けたこと。多分にラッキーだったことは認めざるを得ないが、開幕節に負けて、ホーム開幕戦こそは……と意気込む徳島の焦りを誘って、サクッと先制。そういう展開まで見えてたんだけどね。そして、実際に好機は何度か訪れた。徳島の際を衝いてボールを奪うことはできた。後はゴールネットを揺らすだけだったのに……。いや、よく耐えたんだよ、実際に。3バックにして、中盤で数的優位を作り、サイドも好き勝手に使ってた徳島を水際ギリギリで堪えていた守備陣。粘りに粘ってたんだけど、その分、ラストにしわ寄せがきたのか、再三好セーブを続けていた守護神に生じた僅かな綻び。ソレを修正できないまま浴びせられた波状攻撃に、とうとう決壊してしまった。しかし、負傷交代があったにもかかわらず、90分以上カラダを張って、跳ね返し続けたビクトルを含む最終ラインに文句など言えるワケがない。有り体に言えば、こういう内容でも勝ち点を取り、積み上げていくことが目標達成のためには不可欠。そのことは、選手が一番よくわかっている。ゴール裏に挨拶に向かってくる選手の表情からも悔しい気持ちが伺えるような気がした。だから、ゴール裏も鼓舞することでソレに応えた。どの試合でも、どんな試合でも勝ちたい。それが特別な試合なら尚更のこと。もちろん、相手のあることだから思うようにはいかない。だからこそ、あと1分を粘り切る。何がなんでも決め切る。岡山戦から見せて欲しい。そして、そういう選手たちを後押しするために声を上げる。期待しているよ！（ぐん）

